

令和5年度 学校評価の結果について

諫早市立北諫早小学校

- 1 調査時期 令和5年12月8日(金)～12月22日(金)
- 2 調査対象 北諫早小学校 保護者 児童 教職員 学校関係者
- 3 保護者回収数 家庭数で回答依頼 回収率 49%(243/501)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる
2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

			R4保	保護者	R4児	児童	R4教	教職員
項目	番	内 容	平均	平均	平均	平均	平均	平均
学校全体の取組	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて努力している。	3.2	3.4	3.2	3.2	3.4	3.4
	2	子どもは、学校での生活を楽しみにして過ごしている。	3.3	3.4	3.4	3.5	3.3	3.2
心の教育	3	子どもは、優しい心など道徳的な心情や態度が育っている。	3.3	3.4	3.3	3.4	2.9	3.1
児童理解	4	学校は、子どもとのかかわりを通して児童理解に努め、いじめ問題の予防や早期発見、早期解決に取り組んでいる。	2.9	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5
規範意識	5	子どもは、学級や学校のルールを守り、けじめのある生活ができている。	3.2	3.3	3.2	3.2	2.9	2.9
基本的な生活習慣	6	子どもは、「早寝、早起き、朝ご飯」の生活習慣が身についている。	3.2	3.3	3.4	3.3	2.7	2.7
	7	子どもは、進んであいさつができる。	3.0	3.0	3.3	3.3	2.5	2.7
	8	子どもは、家庭でテレビやゲームに関する約束を守っている。	2.7	2.8	3.1	3.1	2.6	2.4
健康	9	学校は、子どもの健康管理や体力づくりに努めている。	3.2	3.3	3.3	3.4	3.2	3.1
安全管理	10	学校は、登下校の安全も含め、安全対策の充実に努めている。	3.2	3.4	3.5	3.6	3.3	3.3
学習指導	11	学校は、子どもの多様な意見や考えを大切にし、分かりやすい授業づくりに努めている。	3.1	3.3	3.4	3.4	3.5	3.3
	12	子どもは、家庭学習の習慣が身についている。	3.0	3.1	3.4	3.3	3.0	3.1
特別支援教育	13	学校は、子どもの特性に応じた支援をしている。	3.0	3.2	3.3	3.4	2.9	3.3
環境	14	学校は、校舎内外の清掃や教室等の掲示、花壇の手入れなど環境教育に力を入れている。	3.2	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3
連携	15	学校は、家庭や地域団体等と連携して子どもの指導を推進している。	3.1	3.3	2.9	2.9	3.2	3.2
	16	学校の働き方改革は進んでいる。	3.1					3.2

【 考 察 ・ 改善策 】

①保護者

○変更点：今年度は、記名式に変更。責任ある回答が多く、「学校のために」「子どものために」という建設的なものであった。

◎最も高い項目

- 1「学校は、学校教育目標の達成に向けて努力している。」
- 2「子どもは、学校での生活を楽しみにして過ごしている。」
- 3「子どもは、優しい心など道徳的な心情や態度が育っている。」

10「学校は、登下校の安全も含め、安全対策の充実に努めている。」

14「学校は、校舎内外の清掃や教室等の掲示、花壇の手入れなど環境教育に力を入れている。」

【考察】学校の取組に対して、おおむね理解していただいていることが分かる。
※14番について・・・手洗い場の改修（2箇所）植栽の見直し（剪定）、正門前ロータリーの改修⇒小綺麗な環境づくりへ（地域の協力もあった）

▲最も低い項目

8「子どもは、家庭でテレビやゲームに関する約束を守っている。」

【考察】昨年度同様、家庭での過ごし方に課題が伺える。時代的な背景も伺える。
【改善策】学校PTAと協力して北小ルールを作り、実践につなげる
メディアコントロールの徹底、（保護者）講習会の開催など

②児童

◎最も高い項目

4「学校は、子どもとのかかわりを通して児童理解に努め、いじめ問題の予防や早期発見、早期解決に取り組んでいる。」

10「学校は、登下校の安全も含め、安全対策の充実に努めている。」

【考察】
・先生方は自分の悩みなど、丁寧に対応してくれていると、子どもたちは捉えている。
・安全を守る日の取り組みなど、家庭・保護者と連携が浸透しているものと思われる。今後も続けていくための確認が必要（連絡網等）

▲最も低い項目

15「学校は、家庭や地域団体等と連携して子どもの指導を推進している。」

【考察】
・コロナ禍で、子供会や地域団体の活動が中止、縮小された影響によるものと思われる
【改善策】
・地域行事には積極的に参加するよう声かけ、先生方にも声をかけていく

③教職員

◎最も高いものは、

4「学校は、子どもとのかかわりを通して児童理解に努め、いじめ問題の予防や早期発見、早期解決に取り組んでいる。」

【考察】教職員は、児童理解に力を入れている。

▲最も低い項目は

8「子どもは、家庭でテレビやゲームに関する約束を守っている。」

【考察】SNSについては、特に日頃の子どもの話やトラブル等、課題があると感じている

【 相 違 点 】

4「学校は、子どもとのかかわりを通して児童理解に努め、いじめ問題の予防や早期発見、早期解決に取り組んでいる。」については、児童、教職員、ともに高い評価であるが、保護者評価は低いものとなっている。

【改善策】たくさんの視点で子どもたちをみとり、情報を共有し、保護者とも素早い対応を行っていく。
保護者へ取組の周知や、相談しやすい環境づくりを行っていく。

○8「子どもは、家庭でテレビやゲームに関する約束を守っている。」については、保護者、教職員、ともに課題があると感じている。反対に、子どもたちの自覚はそこまで高くない。

【改善策】子どもたちが主体となって案を考えて北小ルールを作り、実践につなげていくことも考慮する